の理由がある様に思われる．その探偵小説の筆者はまえがきに，読者が興味を持って読み，知らず知らずのうちに気象に関心を持たせるような記事の必要を感じている旨を述べているが，いうまでもなく，それが彼に一見奇矯な探偵小説執筆の決意をさせたものに相違ない．出来ばえについては，残念ながら上々とはいいかねる．しかし，こゝにそれを取上げたのはその手ぎわを是非するためではない．

筆者思うに，現在気象関係諸誌の編輯者諸氏で，誌面が充分おもしろく読まれていると自信を持っていえる人は，失礼ながら，案外少ないのではあるまいか．もちろん，気象技術の研修を旨とする雑誌はおもしろくする必要がない，との論旨も成り立つだろう．しかしこの場合，その紹介解説は適切且つ理解しやすいことを要し，それが面白いということと同義語となる．また，もし啓蒙的な気象記事の場合なら，読者に興味を持たせることは実に内容と不可分の関係を持つこととなるであろう．おもしろく読ませることは，読者にこびることでなく，方法と表現に関する重要な問題である．

今夏東朝学芸欄に「夏のペン」と題する記事が連載され，矢野健太郎氏の数学パズルが意外の反響を呼んで，数学教育に関する一話題を提供しだことがある．王道のないことは気象学も数学も変りはない．しかし一応読者を持つ気象雑誌がおもしろくなくてもいゝという理由はない．その意味において問題は提起されたといえるので，これも恰好な気象ジャーナリズム的問題である．

ついでにちよっとつけ加えると，矢野氏によれば，数学パズルの解答はエレガントでなくてはいけないとのことである．ところで筆者のこの手紙はおよそエレガントなるものとは縁遠い．これも適度の「気象ジャーナリズム」が発達すれば，幾分かはよくなるものと実は大いに当にしている次第である．

気がついて見ると，秋雨がかすかな音を立てゝ降っている．それにしばらく耳を傾ける．——

ではこれで擱筆しよう．いずれまた．

—1955・9・20—

天気投稿規定

「天気」は日本気象学会の機関誌で，年12回発行され気象に関係のある，(1)論文，(2)要報，(3)討論，(4)綜合報告，(5)解説，(6)写眞，(7)学会記事，(8)会員消息，(9)意見その他を自由に投稿できますから，ふるって御投稿下さい．

御投稿の時は，次の点に御注意下さい．

1．送り先は，**東京都千代田区大手町1の7日本気象学会，天気編集委員，奥田穣** 宛，のこと．天気編集委員が受理した日をもって，論文受理日とします．
2．原稿は，400字詰めまたは500字詰め原稿用紙に和文で横書きにし，長さは400字詰め原稿用紙で，30枚を越えないようにして下さい．これを越えると，適当な代価を請求することがあります．欧文のアブストラクトをつけても結構です．
3．論文の始めには，題名，著者名，所属機関名を明記して下さい．
4．図表の数はできる限り少なくし，図は黒で縮尺を考慮してせん明にトレースして下さい．
5．数式は行をあけて明瞭に書いて下さい．
6．引用文献は論文末につけ，次の例にしたがって書いて下さい．

藤原咲平：1950，気象光学進歩の概観，気象集誌Ⅱ，28，55～68.

「天気」の編集は天気編集委員会で行い，事情によっては，論文の加筆，削除等を著者に請求することがあり内容によっては，印刷しないこともあります．また印刷の順序は，受理日順としますが，編集の都合によって，必ずしもその通りに行かないことがありますから，御了承下さい．

会員は論文，要報，綜合報告の別刷を50部まで無料で請求することができます．それ以上の部数が御入用の時は，実費で御渡しします．学会記事，会員消息，写眞，その他に対しては別刷を出しませんが，場合によっては実費でおわかちします．非会員の方が投稿された場合には，印刷代および別刷の実費をいただきます．

「天気」編集委員はつぎの通りです．

編集理事　有住直介
編集主任　蔵重一彦
編集幹事　奥田穣
荒井隆夫
小塙磐雄
小林寿太郎
長尾隆
吉野正敏